

稲嶺進名護市長 訪米報告

1月30日から2月5日の7日間、稲嶺進名護市長は「辺野古新基地建設反対」の民意を直接訴えるため、米国ワシントンD.C.を訪れました。今回の訪米行動は、2015年同様に翁長雄志沖縄県知事らの訪米団に同行する形で行われました。

稲嶺市長としては5回目の訪米行動となります。
今回の訪米行動では、名護市独自のワークショップの開催をはじめ、沖縄県主催のイベントへの参加のほか、連邦議会議員（補佐官）との面談を行いました。



1月31日は、辺野古新基地建設問題について、米国内でも多くの人たちに理解を広め、新基地建設阻止にむけての後押しを得ることを目的にワークショップを開催しました。

稲嶺市長は、辺野古大浦湾の美しい自然や12月に起こった安部区のオスプレイ墜落事故についてスライドショーを用いて説明しました。また、「選挙で示された民意を無視して新基地建設を強行している日本政府のもとでは民主主義も地方自治もないがしろにされ基本的人権もない」と訴え参加者に支援を求めました。

参加者の声

- 米国の先住民の活動と連携してはどうか。
- 沖縄の情報をただだけでは私の運営するインターネットニュースで流していきたい。
- 米国の法律では貴重な動物があるところには基地の建設はできないはずだ。
- 今日のようなミーティングを沖縄県ワシントン事務所から発信できないか。
- 沖縄の現状をメディアが積極的に世界中に発信すべきだ。
- 新聞への投稿などできることはたくさんある。小さなことでもいからできる方法を駆使して賛同を得るべきだ。

ワークショップ

ワシントンD.C.
市内カフェ

1/30 → 2/5
[Mon] [Sun]

2月1日～3日 連邦議会でのロビー活動

各連邦議員事務所

2月1日から2月3日は主に連邦議会議員（補佐官）との面談を行いました。今回はトランプ政権発足に伴い、沖縄の現状を改めて伝えることを目的に、オール沖縄会議のメンバーとともにロビー活動を実施しました。

面談では、普天間飛行場の撤去、辺野古新基地建設の断念、オスプレイの配備撤回の3項目を訴えるとともに、その歴史や現状を名護市作成のパンフレットなどを用いて説明しました。面談先においては、大浦湾の生物多様性、新基地の形態、沖縄の現状などについて意見や質問がありました。

面談者の声

- この問題についてわれわれに何ができるか探っていききたい。皆さんとの対話を続ける準備がある。
- 沖縄の負担を当たり前とは思っていない。日本政府との対話だけでなく、地元には選ばれた人たちからも意見を聞きたい。
- 日米同盟が重要な中、墜落や凶悪な事件は心が痛む。このような犠牲は払うべきではない。
- 日本政府で解決すべき問題で米政府が介入すべきではない。
- 懸念はわかるが両政府が決めたこと。
- 沖縄は戦略的に重要な位置にある。

訪米行動日程

- 1月30日 出発式(写真1)
 - 1月31日 ワシントンD.C.着
市主催ワークショップ(写真2,3)
 - 2月 1日 面談 オースティン・スコット(下・共)(写真4)
面談 ビッキー・ハーツラー(下・共)(写真5)
面談 ティム・ケイン(上・民)
面談 ケン・キャルバート(下・共)
面談 ルシール・ロイバル・アラード(下・民)
面談 マイク・コッフマン(下・共)
面談 ダナ・ローラバッカー(下・共)
面談 ブラッド・ウェンストラップ(下・共)
面談 ウォルター・ジョーンズ(下・共)(写真6)
 - 2月 2日 沖縄コレクション委員長志知事講演(ジョージワシントン大学)(写真8)
面談 メイジー・ヒロノ(上・民)
面談 マイク・ラウンズ(上・共)(写真7)
 - 2月 3日 面談 サム・グレイブス(下・共)
面談 ロバート・アダーホルト(下・共)
面談 ダレル・アイザー(下・共)
面談 チャールズ・W・デント(下・共)
面談 トム・コットン(上・共)
面談 ケイ・グレインガー(下・共)
面談 マリオ・ディアス・バラート(下・共)
記者会見(ナショナルプレスクラブ)(写真9)
 - 2月 4日 帰国
 - 2月 5日 沖縄着(写真10)
- ※(議員名敬称略)
上…上院 / 下…下院 / 共…共和党 / 民…民主党



帰国後、稲嶺市長は「新基地建設問題について理解を示す多くの人たちにも会えた。絶対に諦めるわけにはいかない。これからも粘り強く取り組んでいきたい」と決意を語りました。